

# 令和 6 年度第 5 回 学びあい育ちあい推進審議会定例会要点録

令和 7 年 1 月 20 日（月）

出席委員 学校教育関係代表

委 員 久保 明彦

社会教育の関係者

委 員 布施 栄子

委 員 小野 和歌子

家庭教育関係代表

委 員 細田 雅美

学識経験者

会 長 長島 剛

副会長 田中 優

公民館利用者代表

委 員 西山 規子

公募市民

委 員 倉品 みゆき

文化財保護審議会

委 員 横倉 敏郎

出席職員 社会教育・文化財担当課長 齊藤 義照  
公 民 館 長 伊藤 麻衣子  
図 書 館 長 渡邊 哲也

欠席委員 秋澤委員

(開会時刻：14時00分)

議事録署名委員：倉品委員

## 議事次第・配布資料

### [報告事項]

1 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について	【資料 1】
2 公民館事業進捗状況について	【資料 2】

### [協議事項]

1 (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画への意見照会について	【資料 3】
---------------------------------	--------

会長 :	ただいまの出席委員は、9名である。定足数に達していることから令和6年度第5回多摩市学びあい育ちあい推進審議会定例会を開始する。会議録署名委員は倉品委員にお願いする。
会長 :	資料の確認を事務局よりお願いする。
事務局 :	資料の確認の前に、ご報告がある。令和6年11月11日に開催された令和6年度上半期多摩市教育委員会表彰式において、学びあい育ちあい推進審議会の前会長である炭谷先生が教育委員会表彰を受賞された。また、11月1日に開催された令和6年度多摩市功労者表彰式において、昨年度まで学びあい育ちあい推進審議会委員をお勤めいただいた堀井委員が多摩市功労者表彰を受賞されたので、報告させていただく。 — (社会教育・文化財担当課長より資料確認) —

### [報告事項]

#### 1 令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について

・・・・・・・・・ 【資料 1】

会長 :	報告事項1「令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について」を事務局より説明をお願いしたい。
社会教育・文化財担当課長 :	報告事項1「令和6年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会について」を報告する。資料1の1ページをご覧いただきたい。当日の概要となる。昨年12月14日(土)に町田市民フォーラムホールにて東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会が開催された。前半が交流大会、後半が研修会となっている。前半の「交流大会」では、第1ブロックから第5ブロックが今年度開催した研修会の報告があった。詳細は、当日配付・資料1の別紙をご覧いただきたい。なお、第3ブロックの研修会報告は、長島会長よりご報告いただいた。後半の「社会教育委員研修会」では、「生涯学習と学校教育の連携について」と題して、町田市の事例紹介とパネルディスカッションが行われた。資料1の2枚目以降に当日の発表内容を添付している。なお、当日の詳しい報告資料を

	ご覧になりたい方は、電子データをお送りするので事務局までお声がけ願いたい。最後に、本日配付している資料の中で、社会教育 No. 942 記事のコピー「上位法規と下位法規」は、第 3 ブロック研修会にもお越しいただいた東京都市町村社会教育委員連絡協議会会長（町田市生涯学習審議会会長）がお書きになったものである。第 3 ブロック研修会で見学いただいた多摩市の中央図書館の記述もあるので、ぜひご観覧いただきたい。交流大会及び社会教育委員研修会については、当日ご登壇された長島会長からも一言お願いしたい。
会 長 :	まず参加いただいた委員と事務局から当日の感想等をお聞かせいただきたい。
委 員 :	町田市の事例発表で、コーディネーターの方が学校教育と深く関わって活発に活動していると感じた。
事 務 局 :	事務局から交流大会・社会教育研修会に参加した感想や気づきを報告する。自治体ごとにそれぞれが持っている NPO 法人や市民団体との連携等の地域資源を活かし、子どもの居場所や公民館等の講座を終えた方々の活動の場などを作るための取組みを実施していることが分かった。このことを受けて、多摩市の現在の取組みを資料 1・別紙の 4 枚目に事例としてまとめてみた。裏面は、公民館事業の運営主体の割合を示している。令和 5 年度公民館の 39 事業のうち、市民団体、ボランティア、大学、N P O 、民間企業、実行委員会等の協働が 21 事業となり、半数以上が市民団体等と協働して行っていることがわかった。その他の事例としては、多摩中学校や愛和小学校での地域学校協働本部の活動をあげている。学校の環境整備やそうめん流し等のさまざまな行事において地域住民の方にご指導・ご支援をいただきながら実施している。多摩中学校では特に地域学校協働本部の活動が盛んで、運動会でおにぎりや飲み物を販売して活動費を生み出す取り組みを行い、売り上げた額は全て地域学校協働活動や子どもたちに還元できるところで使用している。また、愛和小学校では、児童支援として読み聞かせなどを保護者や地域団体による授業支援によって実施している。この地域学校協働本部の活動については、地域の方をメインに学校の活動にご協力をいただいているが、地域の方の思いが先行してしまうと学校側がついていけないという状況もあるため、両者のバランスが大切であるという声もある。また、大谷戸プレーパーク TAMA は、国士館大学との協働により、大谷戸公園キャンプ練習場で、子どもたちが自主的・自発的に自然体験や野外体験ができる場の提供を目的に平成 21 年度から開始し、現在は毎月 1 回土曜日に開催しており、今後も開催していく予定である。これらの事例は、いずれも地域の方や市民団体、大学等と協働して実施している事業となっている。
会 長 :	当日配付の資料 1 をご覧いただきたい。交流大会は、第 1 ブロックから第 5 ブロックごとに成果を発表する会であった。第 1 ブロック（羽村市）は、「リアルでらこや」と「はむらプレーパークの会」の事例発表となっており、とても積極的な活動を行っていると思った。第 2 ブロック（国立市）は、公民館職員と一般社団法人眞山舎、N P O 法人ぐにたち富士見台人間環境キーステーションと一橋大学まちづくりサークル Pro-K の方々、公民館職員により事例発表が行われ、社会教育委員とグループワークをしていることがわかりとても参考になった。第 4 ブロック（清瀬市）

	では、市民団体と交流しながら実施していることがわかる内容となっていた。第5ブロック（府中市）では、特定非営利活動法人ママチャリーズとi-zeの方々が活動を発表したが、市民活動を管轄している部署が関わっているようであった。その後の社会教育委員研修会では、国士館大学の先生がファシリテーションをしながら玉川大学の先生（前町田市立金井中学校長）と市民団体の中間組織である町田市地域活動サポートオフィスや学校支援ボランティアコーディネーターをパネリストとした事例発表が行われた。学校教育と社会教育、市民活動を連動させて上手く行っている事例であった。はじめは、どこの市も学校教育と社会教育の連携は遅れていると思っていたが、発表を聞いた中では、どこも活発に活動しているように感じた。このような方向を多摩市も目指していった方が良いのではないかと刺激を受けた。今回の第3ブロック研修会は、新しく中央図書館が開館したこともあるのでその見学を研修とした。先ほどの事務局の説明によると、多摩市でも色々な活動をしているとのことであるが、実際のところはどうなのか。他市でも学びあい育ちあい推進審議会と同じような会議があるが、そこで行われていることは公民館や図書館の報告や意見聴取だけの会議ではなく、地域の方々のボランタリーなどの連携が行われているように見受けられた。このあたりの認識を事務局にお伺いしたい。
社会教育・文化財担当課長：	地域学校協働本部ができる前になるが、多摩市には、20～30年前から既に小中学校ごとに地域の方、自治会長、青少協役員、学校の先生、児童館長、駐在所のおまわりさん、商店街の方等による学校協議会があり、イベントや学校の教育活動の中で地域にできることについて話し合い、そして実践してきた。この活動が地域学校協働の初期になると認識している。多摩市では、中間コーディネーターではなく、それぞれの地域ごとで動いていると認識している。例えば、昭和の多摩市やニュータウン開発前後の多摩のことを子どもたちに話してくれる地域の方がいらして、その話にでてきたことを「ふるさと資料館」で実際に見学するということを行っている。このような動きが社会教育と学校教育のひとつの連携の形であると考える。現在も文化団体連合に加入しているお琴、茶道、華道、日本舞踊などの伝統芸能の活動をしている団体が学校を通じて子ども達に伝統芸能体験の事業を展開している。市が中心となってコーディネートするのではなく、地域ごと学校ごとにそれぞれの社会資源を活用して活動していると認識している。
会長：	多摩市も他市と同じように出来ているということか。
社会教育・文化財担当課長：	地域によって活動はさまざままで、何を以って町田市より出来ている出来ていないと言うことは難しいが、各校が地域の特色を活かした活動を行っている。
会長：	今回は、社会教育と学校教育の重なりだけではなく、市民活動が入っている事例発表があった。市民活動団体が主体的に社会教育や学校教育と連携しながら動いているイメージであった。ここが多摩市には感じられない部分なので、他の部署でやっているのであれば良いが、この審議会で議論することであるならば、かなり遅れていると感じた。
社会教育・文化財担当課長：	多摩市社会福祉協議会では、地域を10ブロックに分けてエリアごとに福祉の観点から地域でできることを数十年前から地域の社会資源と一緒に実施している。ま

	た、住民や地域の団体、N P O 法人や職員等が参画してさまざまな地域の課題を解決していく「協創」の動きが始まっている。そういった意味では、町田市とは切り口が違うと思っている。
委 員 :	多摩市では、「コーヒーの淹れ方」を勉強できる事業があった。この応募条件が、地域のコミュニティや皆が集える場所を作りたいと思っている人であった。このようなことが地域コミュニティに市が関わる一つの手立てなのかと思う。多摩市は、地域の方が関わり助け合いが生まれるような活動のきっかけの募集や案内をしている。多摩市の地域コミュニティづくりをこの場で共有していくと、コミュニティの中の社会教育とは何か、逆に社会教育の視点からこのようなコミュニティを作つていったら良いか、そこから公民館をどう利用していいたら良いか等の話になるかと思う。多摩市も行っていると思うが知る機会が少ないので、この場でも多摩市における地域のコミュニティ活動が共有されると良いと思う。
委 員 :	活動は活発かもしれないが、その経緯や結果が分かるものがない。市の広報などで一つに集約して発表するなど分かりやすくすると活動する側や利用する側にとっても良い。
委 員 :	多摩市の場合、コミュニティセンターが各地域にある。自分の地域にも唐木田コミュニティセンターがあり、地域の団体が指定管理者として管理を行っているほか、自分達でさまざまな事業を企画している。例えば、からきだの道の会が大松台小3年生を対象に毎年カブトムシを観察しながらカブトムシの解説を行っているが、昨年は唐木田コミュニティセンターを会場としてこの会を行ったところ、学校で行うより保護者の方が来やすいというメリットもあった。このようなかたちで、どこのコミュニティセンターも地域の特徴を活かした事業を行っており、多摩市は地域コミュニティに力を入れていると考えている。
委 員 :	公民館通信を作っている立場から、このようなところで案内やお知らせができたら良いと思った。
会 長 :	交流大会の内容は、大変刺激を受けた。それぞれやり方が違う参考になることがあると思った。情報を得ながら、我々の出す方向をこのようなところの話を聞くことで学ぶことも多いと思った。市の協創推進室が横断的地域のつながりを作っていると聞いているが、どのようなものか。
社会教育・文化財担当課長 :	地域ごとに地域課題を見つけて地域で解決していくうといいうもの。足りないものは外部から応援をいただき、地域ごとの特色を活かしながら必要な課題を整理して必要な対策をとっていくような、より機能的でもっと地域に密着したものにしていくための核になるもの。地域ごとのコミュニティセンター、社会福祉協議会の活動などいくつもが重なっている。今、この重なったものを一つにまとめ情報共有をするということで協創推進室が動き始めていると聞いている。
会 長 :	自分たちの町の中で起こっていることが共有されていないと感じているので、新年度になつたら協創推進室の部署の方に来てもらい地域での活動を紹介いただきたいと思う。ぜひ検討願いたい。
社会教育・文化財担当課長 :	時間を設けて、改めて報告させていただきたい。

## 2.1 公民館事業進捗状況について・・・・・・・・・・・・ 【資料 2】

会 長 :	報告事項2「公民館事業進捗状況について」を事務局より説明をお願いしたい。
公 民 館 長 :	<p>公民館事業進捗状況の前に、1月17日(金)・18日(土)に公民館利用者懇談会が開催され、学びあい育ちあい推進審議会からもご出席いただきお礼申し上げる。今年度は、公民館への要望が多いものとなった。市民の活動団体の意見として、反映できるところは反映して今後改良していきたいと思っている。</p> <p>資料2「令和6年度公民館事業進捗状況について」を説明する。地域生活講座では、コミュニティセンターと連携したアウトリーチ事業として、ゆう桜ヶ丘で「笑いヨガ」を開催した。また、関・一つむぎ館では地域をめぐるまち歩き事業を実施した。子育て支援講座では、子育て世代を中心とした3回の講座を行った。1回目はパーソナルカラー診断、2回目は骨格診断、3回目はアイシェイプ診断。どれも予約がいっぱいの人気のある講座となった。この講座では、自分のなりたい自分をイメージして参加者同士が診断し合う時間を設ける等コミュニケーションにも重点を置いた。講座後には、保育室開放において子育て世代で話し合う機会も設けた。地域の活動に広がることを期待して今後も実施していきたいと思っている。学校や地域と連携した事業では、公立中学校職場体験や多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校探求ゼミの受け入れを行った。また、長島会長からお声がけいただき、都立永山高校の探求のクラスと一緒にやっていくこととなり、来年度以降本格的に受け入れていきたい。市民講座では、10月27日にグリーフケア講演会を行った。自死遺族の方、身近な方をなくされた方など残った側のサポートや福祉分野ではあるが遺族が集まる場として公民館で開催した。今後も継続したサポート活動を支援していかなければならないと考えている。施設等活用事業では、12月13日～14日に第2回スターライトバルコニーを関戸公民館のバルコニーで開催した。ロビーに寝ころびながらプラネタリウムを鑑賞し、夜にはプラネタリウムを見ながらコンサートを聴いた。昨年は、一ノ宮児童館との連携で行ったが、一ノ宮児童館の子ども達の参加が少なかった。この反省を活かし、今年度は事前に一ノ宮児童館で竹灯籠を作るワークショップを行い、当日床に置いて灯籠の灯を照らしたところ、一ノ宮児童館の子ども達の参加も多くなった。また、東寺方と関戸のおやじの会による地域参加もあった。TAMAシネマフォーラムは、第34回を迎える今年度も盛況に実施することができた。What's JAZZは、12月6日の講演で70回を迎えた。実行委員会形式であるが、実行委員会の方々がご高齢で市の関りがないと運営が難しい状況となっている。今後どのようにしていくのかが課題であり、実行委員会の方とよりよい運営方法を探っていく必要がある。最後に、資料2には記載がないが、先ほど委員から話のあった「街でバリスタはじめの一歩～セミナー&amp;カフェ学&amp;発表～」を現在開催しているところである。1月18日～2月9日までの土日に全5回開催で、コーヒーをツールとして、街に飛び出して集まる場、またその方々の活動の輪が広がり、コーヒーを通してこの活動の担い手になっていただくことを目的に実施している。1・2回目は、貝取にあるコーヒーカフェのバリスタチャンピオンからコーヒーを学ぶ。公</p>

	民館としては、学びの場や集う場を提供し、地域の資源を活かして地域で活動する担い手を増やしていければと思っている。
会長：	公民館利用者懇談会について、出席した委員から気づいたことや感想をお願いしたい。
副会長：	関戸公民館の利用者懇談会に出席した。利用者が普段感じている机の重さや電気の明るさなどの直近の話題と大規模改修の長期的なプランの話が一緒に進んでいくようなかたちであった。現状を理解するには良い機会であった。大規模改修でハードを新しくするということであったが、現状に合わせてハードをどのように利用していくのか、ハードを有効利用できるような仕組みづくり（ソフト面）をこれから考えていく時期であると思った。多摩市特有の学校中心の地域活動は、現在では学校が小さくなってきていて、学校が活発だった時のお父さんお母さんが高齢者になりメインで活動され市民の活動へ移ってきてていると思う。同じように仕組みも動いているのだが、現状が上手くまわっていない。公民館利用者のニーズと大規模改修した後で本当にまわっていくのだろうかとの感想をもった。全体的に同じような問題を抱えているように感じた。
委員：	関戸公民館の利用者懇談会に出席した。記憶によると前年度と同じ方が参加されていた。皆さん話されることも毎年同じで要望が多い。その中で、身体が悪い方が使用申請する際にも公民館へ出向かないといけないとの話があった。会議室も将来的には、ネットによる予約がスムーズで公平ではないかと感じた。
公民館長：	公民館は、本来「集う・学ぶ・つながる」が目的になるので、予約時も競争ということではなく、基本的には皆で話し合いながらコミュニケーションをとって予約を取ってほしいという願いもある。ホールや大会議室は、初日の抽選会に来ていただいているが、諸室はすぐネットの予約システムによる抽選を行っている。しかしこのご時世において必ず初日に来館するということは難しいとも考えられるので、本来の公民館の設置目的を考えながら、今後検討していきたい。
委員：	永山公民館の利用者懇談会に出席した。参加が昨年より少なかったように感じた。また参加者同士の話し合いが全くなかった。去年は、参加団体にマイクがまわり活動内容を紹介する一言があったが、今年はなく要望だけを聞く会となっていた。利用者からは稼働率や使用料への意見等があった。参加者の2人はよく話していただいたが、残りの方々は一言も発言されることなく帰られたので、せっかくの利用者懇談会の機会が勿体ないと感じた。
会長：	利用者懇談会では要望を聞くことも必要だと思うが、次回は皆さんとつながっていく会にしていくよう開催方法を検討していただきたい。 コミュニティセンターは、子育て支援講座など公民館を小さくしたような事業を行っているようだが、例えば公民館がコミュニティセンターを回るようなやり方をしてはいけないのか。公民館とコミュニティセンターは別のものなのか
公民館長：	公民館とコミュニティセンターの設置目的は違うが、連携は可能である。コミュニティセンター以外にも児童館もたくさんあるので、回るよりは連携した方が良いかと思っている。

会長 :	2館だけの公民館で事業を行うよりも、近くにあるコミュニティセンターで地域の方に届くように、例えばスマホ教室などの小さなイベントを輪番で回っていくと効率よく集まるし、コミュニティセンターも盛り上がると思う。
委員 :	コミュニティセンター運営協議会では、地域の特色を活かして自分たちで考えて行っていきたいということもある。公民館と一緒に行いたいとの話になれば連携も可能かと思う。
会長 :	自主性は保ちながらも、公民館がコミュニティセンターを応援していくかたちが良いのではないか。公民館は、大きな事業に向いた方が良いかと思う。また、事業進捗状況で報告のあった高齢化による事業承継の問題は、市役所が引き取るのか。市が引き取らず、各団体が後継者を探していく方向にしていかないといけないと思う。公民館が事業承継の仕組み作りをしっかりと行うべきであると思うが、公民館はそのようなことを行っているのか。
公民館長 :	事業継承は公民館で行っているが、今は市がサポートというかたちで入っている。やり方が閉鎖的であるとの課題もあるので、ここを考えていながら実行委員会として実施できるようにしていきたい。
会長 :	町田市の事例によると、この部分を中間組織が大学へつないでいるようにみえた。市としてその活動が必要であれば、大学または小・中学校へつないで子ども達の活動と組み合わせていく等を検討していくと良いと思う。

### [協議事項]

#### 1 (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画への意見照会について · · · · · 【資料 3】

会長 :	協議事項1「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画への意見照会について」を事務局より説明をお願いしたい。
図書館長 :	資料3-1「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画策定のスケジュールについて」をご覧いただきたい。5月に第1回策定委員会を開催し、ここまでで5回開催している。有識者会議は、4月に市民委員を公募し、第1回を5月に開催したが、第2回は台風で中止となり、ここまでで3回開催している。教育委員会では、3月に素案を決定する予定である。この学びあい育ちあい推進審議会では、1月に報告と意見照会をし、市民意見交換会は全館で実施している。今後、2月に図書館協議会等で報告や意見照会を行い3月に素案を決定する。令和7年度には、パブリックコメントの実施、市民説明会を行う。パブリックコメントを反映し、再度図書館協議会で意見照会し、9月の教育委員会で計画を決定し、各所で報告していく。市民意見交換会は、全7館で実施していく。1月18日は中央図書館で実施し9名の参加があった。レファレンスサービスの充実、社会人席の要望、利用者と職員とのコミュニケーション、運営で市民の声を聞く場を持って欲しい等ご意見をいただいた。豊ヶ丘図書館は、7名の参加となった。インターネットを利用したサービスを進めてPRしてほしい、地域図書館の児童の利用促進、声を出しても良い場所、外国語の本を増やして欲しい等のご意見があった。

	<p>次に、資料 3-2 「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画骨子案概要」をご覧いただきたい。こちらは、12 月の有識者会議で意見をいただいたものを反映させたものである。基本理念は、『市民の「読む」「知る」「学ぶ』を支援し、自ら考え、共に課題を解決できる、心豊かな地域を育みます～「知の地域創造」の実現へ～』である。基本方針は、大きく 4 つある。①だれもが使える図書館、②一人ひとりの子どもに寄り添うサービス、③市民のしらべるを支え、役立つ図書館、④持続可能な図書館の管理・運営体制の充実と強化。内容は、資料 3-2 のとおり。①だれもが使える図書館で新たに増えた部分は、「4 高齢者サービスの充実」、「5 多文化サービスの充実」、「6 読書バリアフリーの推進」である。②一人ひとりの子どもに寄り添うサービスでは、学校図書館との連携を「11 多摩市立小中学校への協力・支援・連携」で記載している。</p> <p>資料 3-3 は、計画の体系で、左側が「多摩市読書活動振興計画」、右側が「第三次多摩市子どもの読書活動推進計画」になっている。右側の子どもの計画については、左側の読書活動振興計画の「(2) 子どもへのサービスの充実」に記載するものとして 1 つの計画として策定していく。</p> <p>資料 3-4 「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画 (素案構成案)」は、新しい計画の素案の構成となる。第 1 章計画概要では、計画の背景と目的や計画の位置づけ、第 2 章多摩市立図書館の現状と課題は、図書館を取り巻く状況やこれまでの読書活動に関する計画の取組みと成果、多摩市立図書館の現状、アンケートからみる多摩市立図書館の現状、多摩市立図書館の課題となっている。第 3 章基本理念と基本方針は、基本理念や基本方針、施策体系。第 4 章計画の内容、施策、指標では、4 つの基本方針をそれぞれ掲げ、施策や指標を細かく記載していく。第 5 章計画の推進体制では、計画の推進体制、計画の進行管理・評価を載せている。現在素案が作成中であり、本日は提示できる資料をお示し説明させていただいた。学びあい育ちあい推進審議会においてご意見をいただければ、素案に反映させていただきたい。本日ご意見が難しいようであれば、1 月 27 日 (月) までに事務局へメールでご意見をお願いしたい。</p>
会長 :	多摩市読書活動振興計画と多摩市子どもの読書活動推進計画はどう違うのか。
図書館長 :	重複するところはあるが、子どもの読書推進計画は学校との連携や出先のアクションプランがより細かく 150 項目ぐらいある。進行管理が大変なこともあるので、この部分も整理しながら行っていく。子どもの読書活動推進計画は、令和 6 年度で終わり、令和 7 年度に策定する多摩市読書活動振興計画の「(2) 子どもへのサービスの充実」へまとめていく。
委員 :	資料 3-2 「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画骨子案概要」の「②一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」は、一人ひとりの子どもとする必要はあるのか。それぞれ発達や興味が違うので、一人ひとりを外して「子どもに寄り添うサービス」ではいけないのか。
図書館長 :	しっかりと一人ひとりに寄り添いよりきめ細やかに行っていきたいという思いがある。「一人ひとり」は、理念としての思いでもある。

委 員 :	資料 3-4「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画(素案構成案)」の第5章計画の推進体制の「2 計画の進行管理・評価」の部分は、評価に対しても進行管理をするという意味合いなのか。いつまでにこのような評価をして反映する等を含めた推進体制にしたほうが良いと思う。
図 書 館 長 :	現行計画は、毎年度の進行管理を図書館協議会で行っている。その中からいくつか選んで自己評価と外部評価を行っている。評価したものを見年度に反映している。
委 員 :	事業を実施する時に指標が大切だと思う。例えば先ほどの「一人ひとりの子どもに寄り添うサービス」でどのようなことができたら一人ひとりに寄り添うサービスだと認識しているのかを決めていかないと計画と実行が曖昧なものになってしまう。これが決まっていないと次の計画に結びつかない。評価をしていく時に、どのような状態を良しとするのかを共通でもっていた方が実行しやすい。評価も明確にしたほうが良いかと思う。
図 書 館 長 :	独自に調査することは難しいので、客観的なもので結果として見えるものを毎年度の調査等でとっていくと良いと思う。
委 員 :	全部を行うのは大変だと思うので、優先順位をつけていくことを考えていくといい。例えば、重点項目を「ICT の活用によるサービス向上・効率化」とした時に、今までネットを使っていない人の利用を伸ばすためにどのようなことを実施するのか、本当にその通りになっているのか。それに比べて「多文化サービスの充実」では、例えば 100%でなくても外国人のうちの 2 割の方の評価で良いという指標であればお金のかけ方も変わってくる。すべてに対応するのは大変なので、このような観点からどこを優先するかの優先順位を決めた方が良いと思う。
委 員 :	一人ひとりの子どもに寄り添うサービスでは、すべての子どもに読書の喜びを基本理念として掲げるは素晴らしいと思う。施策の中でも、支援の必要な子ども達への取り組みの推進を取り入れていることは良い。小学校でも 2 年生に図書館での本の借り方や館内の説明を図書館でもらっている。だれでも借りやすいように対応していただいていると実感している。すべての方への対応は難しいと思うが、どうやったらできるかを考えいただければ、学校としてもありがたいと思っている。
図 書 館 長 :	資料 3-3 については、令和 6 年度で終わる計画の体系である。左側が図書館の計画、右側が子どもの計画。これが資料 3-2 のように新しくなっていく。学校との連携では、現在小学校 2 年生に図書館訪問をしてもらっている。その他、電子図書館も進めており、今まで同じ資料を数人にしか提供できなかつたが、同時に何人でも見ることができる資料を入れ始めている。これは、調べ学習などのタブレットを利用する学校での取り組みも見据えている。
会 長 :	資料 3-2「(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画骨子案概要」の「10 子どもに関わる施設・教育機関・団体・個人への協力・支援・連携」や「16 読書活動に取り組む団体の協力・支援・連携」、「20 ボランティア活動の促進」は外部との連携の部分であるが、これら以外は図書館の方でキャッシュアウトする内容だと思う。これからは右下がりの時代で進行できない時代がきているので、もっとコスト意識を持

	った方が良いと思っている。連携することによってコストを下げていくことや先ほどの意見のように全部を行わなくとも良いと感じている。大学生にボランティアをしてもらう、小中学生に働く経験をしてもらう、企業に何かをやってもらうなどの連携を持続可能な図書館の管理にしっかりと入れ込んだ方が良い。調布市の図書館は、電通大と協働してセンサーによる人数や人の動向数の把握をしている。例えば、このようなことを地元の企業と一緒にやっていくなどを振興計画の最後に入れていくと良いと思う。
図書館長：	中央図書館では、施設内に植栽がたくさんあるが、ボランティアを入れてやっていく予定である。今後も市民を入れて運営していくことも視野に入れていきたい。
会長：	中央図書館の植栽については、多摩センターという場所や雰囲気も良いので、ネーミングライツして運営していくことを検討しても良いかと思う。
会長：	(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について、この他に意見があれば、1月27日（月）までに事務局へお願いしたい。 これで、協議事項が終了した。他に事務局から連絡事項はあるか。
社会教育・文化財担当課長：	本日お配りしている「令和7年度多摩市学びあい育ちあい推進審議会定例会年間予定」は、来年度の開催予定日となる。現時点ではあるが、この日程で開催を進めさせていただく予定なので、よろしくお願いしたい。
会長：	以上で、本日の予定は全て終了した。次回は、2月19日水曜日14時から、会場はベルブ永山の教育委員会会議室で行う。

(1時間45分)

(閉会時刻15時45分)

会議規則第10条第4項によりここに署名する。

令和　　年　　月　　日

会長

委員